

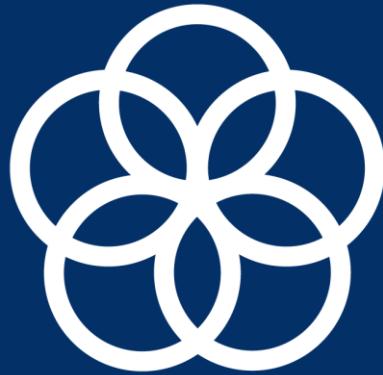


名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2023年度版)



17

パートナーシップで
目標を達成しよう





大学案内・
教育情報の公
表

学部・大学
院

受験生の方
図書館・病
院・
附属施設

在学生・保護者の方
教育・学生生
活

卒業生の方
キャリア・就
職

企業の方
研究・産学官連
携・
社会貢献

一般の方・教職員志望の方
国際交流・留
学

ご支援をお考えの方
入試情
報

SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > ESD概論での実践報告

全画面プリント 本文プリント

SDGs活動紹介

ESD概論での実践報告



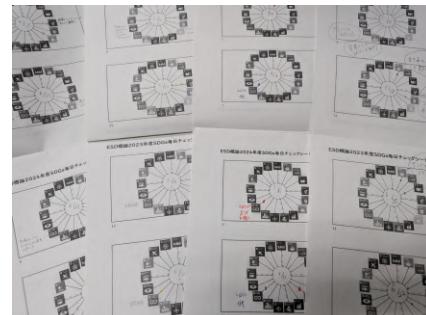
活動の概要

人文社会学部心理教育学科の曾我幸代准教授が担当している「ESD概論」では、受講している学生たちが事前にグループで考えた「持続可能なキャンパス案」の企画案を実際に行動に移すことを促す活動を行っていますが、2022年度からは、学生たちに個々人の生活レベルでの実践を求め、学生たち自身がSDGsのリテラシーを評価する取り組みも行っています。組織や集団だけではなく、個々人でも行動することの重要性が説かれているSDGs時代だからこそ、こうした取り組みの経験が必要となります。

学生個々人の生活チェックでは、4週間（28日）分のシートに、自らの生活がどれだけSDGs達成に貢献しているのかをゴールごとに記述し、0から3の4段階で評価してもらいます。視覚化することで、自身の行動をふり返ることができます。学生は、自ら記した4週間分のチェックシートを見直し、気づいたことや実践してみての感想を作文します。提出されたレポートからは、学生たちが普段の生活习惯に意識を向けていなかったこと、また、SDGsと自らの生活との関わりに気づかされたことなどを読み取ることができます。どこかの誰かの話だったSDGsが、自ら評価したチェックシートを通して自らの生活とリンクしていることに気づき、意識や行動の変容のきっかけとなっていることがわかります。また、行動すること、習慣づけることの大変さを実感することで、決してやさしいことではないことも学生たちは実感しています。

活動の時期

2022年度以降



学生が実際にチェックしたシート

スマートフォン表示

PC表示

桜山（川澄）キャンパス
〒467-8601
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

滝子（山の畑）キャンパス
〒467-8501
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畠1

田辺通キャンパス
〒467-8603
名古屋市瑞穂区田辺通3-1

北千種キャンパス
〒464-0083
名古屋市千種区北千種2-1-10

医学部	医学研究科
看護学研究科	

交通アクセス キャンパスマップ

経済学部	経済学研究科
人文社会学部	人間文化研究科
総合生命理学部	理学研究科
データサイエンス学部	データサイエンス研究科

交通アクセス キャンパスマップ

薬学部	薬学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ

芸術工学部	芸術工学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ



大学案内・
教育情報の公
表

学部・大学
院

受験生の方
図書館・病
院・
附属施設

在学生・保護者の方
教育・学生生
活

卒業生の方
キャリア・就
職

企業の方
研究・産学官連
携・
社会貢献

一般の方・教職員志望の方
国際交流・留
学

ご支援をお考えの方
入試情
報

SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > 淡水・沿岸魚類の系統地理構造に基づくインドネシア島嶼域の生物地理区境界線の検証

全画面プリント

本文プリント

SDGs活動紹介

淡水・沿岸魚類の系統地理構造に基づくインドネシア 島嶼域の生物地理区境界線の検証



研究開始時の研究の概要	名古屋市立大学生物多様性研究センターの熊澤教授（理学研究科）が代表となって進めている本研究では、ワラセアと呼ばれる動物相の遷移帯を中心に、インドネシア島嶼域の淡水魚と汽水・沿岸魚を野外採集し、分類学的検討を行うとともに、最新の分子的アプローチを用いた系統・集団解析を行う。その結果に基づき、塩水中の分散特性が異なる魚類の種（集団）分布や系統地理構造を古環境学の背景と関連づけて理解し、生物地理区境界線との関わりを高精度に検証する。インドネシア島嶼域では、近年の環境破壊で生態系の持続性に深刻な懸念が持たれている。本研究は、生物地理学を格段に発展させるのみならず、東南アジア諸国で生物多様性の保全と生物資源の持続的利用を図るうえで必要な研究人材とそのネットワークを育てることに繋がる。
研究実績の概要	2022年度の前半は新型コロナウイルス感染症の影響で、日本側研究者がインドネシアを訪問して現地調査を実施することが難しかった。そこでインドネシアおよびタイの研究協力者による魚類サンプル採集を複数回実施した。インドネシアでは、2022年の6月から8月に主にスマトラ島の広範な地点で、2023年の1月から3月にジャワ島・スマトラ島などいくつかの島でサンプリングを実施した。また、3月には研究協力者のMr. Khalil（研究代表者の研究室に所属する国費留学生）がボルネオ島に行き、サンプリングを行った。大小河川の河口域や湖沼を中心に、ハゼ目のオクスデルクス科などの科を構成する約20種の淡水・汽水魚類標本を探集できた。また、スズキ目の様々な科に属する約15種を中心とした沿岸魚類の標本も収集できた。採集されたサンプルがカバーする魚種数は前年度より少ないが、これは研究する対象魚を絞り込んでサンプリングを行ったためである。 これらの標本の一部は、インドネシア政府またはタイ政府の許可を得て、研究代表者の研究室に提供され、国際共同研究体制のもとで系統分類学的研究を行なった。組織標本については、そこからDNAデータを抽出して、ミトコンドリアDNAにコードされるシトクロムオキシダーゼサブユニットI遺伝子の塩基配列を決定し、分子系統解析を実施した。ホルマリン固定された体標本については、形態的な分析を行い、現行の分類学的情報による種同定と分子情報に基づく系統関係の対比を行った。ハゼ目オクスデルクス科やスズキ目ツバメノシロ科などの分類群において、従来の分類学的研究では認識されていなかった新種の存在が示唆されており、それについて詳しく分子系統学的・形態学的解析を行った。 本研究課題の国際共同研究チームのメンバー間で研究成果を共有するために、zoomを利用した科学セミナーを7月と12月に公開で実施した。
研究代表	名古屋市立大学生物多様性研究センター 熊澤 康伯（理学研究科）
研究期間	2019年度から2024年度
関連URL	<ul style="list-style-type: none"> • 淡水・沿岸魚類の系統地理構造に基づくインドネシア島嶼域の生物地理区境界線の検証 • 名古屋市立大学生物多様性研究センター

スマートフォン表示

PC表示

SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > JST/JICA 国際科学技術共同研究推進事業(SATREPS)ブータンにおける組積造建築の地震リスク評価と減災技術の開発

全画面プリント

本文プリント

SDGs活動紹介

JST/JICA 国際科学技術共同研究推進事業(SATREPS)ブ ータンにおける組積造建築の地震リスク評価と減災技 術の開発



研究の概要	<p>地震リスク評価・耐震化技術の開発と普及で、将来の災害に備える</p> <p>ブータンでは、首都をはじめとする一部の市街地で地上5階建てまでの鉄筋コンクリート建築と、2階建てまでの煉瓦建築が多くみられるほか、ほとんどの民家と公共施設が版築*1あるいは割石*2積みで建てられている。プロジェクトでは、ブータンにおける地震研究により得られた地震ハザード評価の結果を加味したブータンの伝統建築である組積造建築の耐震化指針と減災教育マニュアルを作成し、技術者・施工者向けの講習や住民教育を通して、地震に強い地域づくりを支援する。</p> <p>*1 版築…壁となる部分に両側から板などで枠を作り、その中に建材を詰めて突き固める工法のこと。 *2 割石…石材を任意に割ったもの。</p> <p>ブータンの減災を実現する技術の開発で、安心安全な地域づくりに貢献</p> <p>実大実験に基づく耐震化指針と減災教育マニュアルの運用を、ブータンの災害管理行政に提案し普及させることで国民の防災意識の向上に貢献する。このプロジェクトで開発される技術は、従来の土や石を建築材料とした脆弱な構造の住宅が崩壊することによって発生する災害を克服するモデルとして、他の国々にも普及を目指す。</p>
	国際共同研究期間 2017年4月27日から2023年4月26日まで
研究代表者 芸術工学研究科 教授 青木 孝義 内務文化省文化局 局長 ナクツォ ドルジ	
関連URL 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム 研究プロジェクトWEBサイト	
その他 2023年10月13日から10月31日には、成果報告展として、展示・体験ワークショップ「ブータンの幸せのために！」を開催しました。 期間中には、ブータンにおける伝統建築の耐震化を支援するプロジェクトの成果である仮想現実(VR)を使用した減災教育体験も行われました。	<p>展示・体験ワークショップ「ブータンの幸せのために！」</p>

スマートフォン表示

PC表示

桜山（川澄）キャンパス

〒467-8601
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

医学部	医学研究科
看護学研究科	

交通アクセス

[キャンパスマップ](#)

滝子(山の畑)キャンバス

〒467-8501
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

経済学部	経済学研究科
人文社会学部	人間文化研究科
総合生命理学部	理学研究科
データサイエンス学部	データサイエンス研究科

交通アクセス

[キャンパスマップ](#)

田辺通キャンバス

〒467-8603
名古屋市瑞穂区田辺通3-1

薬学部	薬学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ

交通アクセス

[キャンパスマップ](#)

北千種キャンバス

〒464-0083
名古屋市千種区北千種2-1-10

芸術工学部	芸術工学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ

交通アクセス

[キャンパスマップ](#)

[サイトポリシー](#) [プライバシーポリシー](#) [ウェブアクセシビリティ](#) [学内組織リンク](#) [学外関連リンク](#) [このサイトについて](#)

Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY. All rights reserved.

SDGs活動紹介

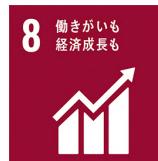
ホーム > SDGs活動紹介 > 岐阜県白川町・名古屋市立大学経済学部・株式会社コミュニティネットワークセンター共同企画・実施「共同講座」1年目報告

全画面プリント

本文プリント

SDGs活動紹介

岐阜県白川町・名古屋市立大学経済学部・株式会社コミュニケーションネットワークセンター共同企画・実施「共同講座」1年目報告



活動の概要
2023年3月3日に岐阜県白川町と名古屋市立大学経済学部（以下「名市大」）と株式会社中部コミュニケーションネットワークセンター（以下「CNCiJ」）は、社会課題の解決や学生や社員等の育成・能力開発等を目的に連携協定を締結しました。
共同講座は、地域課題の解決を目指して、グループワークによる対策案の検討と企画提案を行う「事業構想編」と、提案内容の検証と新たな地域資源の発見を組み合わせて展開する「フィールドワーク編」で構成されます。
2023年4月から9月にかけて学生・若手社員・若手職員が「メディアの活用」「移住促進・観光ブランド化」「高齢者世帯・独居老人を見守る体制づくり」「地域産業の活性化・再生」のテーマで対策立案と、町長・社長・町民の方々への提案を行いました。フィールドワークでは、対策の実行性を高めるための検証とSNSを通じて岐阜県白川町の魅力発信に努めました。

活動の時期
2023年度

関連URL
本学広報誌『創新』Vol.50

スマートフォン表示

PC表示

桜山（川澄）キャンパス

〒467-8601
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

医学部
医学研究科

交通アクセス

キャンバスマップ

滝子（山の畑）キャンパス

〒467-8501
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

経済学部
経済学研究科
人文社会学部
人間文化研究科
総合生命理学部
理学研究科
データサイエンス学部
データサイエンス研究科

田辺通キャンパス

〒467-8603
名古屋市瑞穂区田辺通3-1

薬学部
薬学研究科

交通アクセス

キャンバスマップ

北千種キャンパス

〒464-0083
名古屋市千種区北千種2-1-10

芸術工学部
芸術工学研究科

交通アクセス

キャンバスマップ



大学案内・
教育情報の公
表

学部・大学
院

受験生の方
図書館・病
院・
附属施設

在学生・保護者の方
教育・学生生
活

卒業生の方
キャリア・就
職

企業の方
研究・産学官連
携・
社会貢献

一般の方・教職員志望の方
国際交流・留
学

ご支援をお考えの方
入試情
報

SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > 人文社会学部ESDの取り組みに関するFD研修（2023年度前期）の報告

全画面プリント

本文プリント

SDGs活動紹介

人文社会学部ESDの取り組みに関するFD研修（2023年 度前期）の報告



活動の概要

人文社会学部において前期に実施したFD（Faculty Development：教員研修）では、新任教員の研修もかねて、ESD入門での学びの共有とともに、基礎科目で大切にしていることを確認する機会をもちました。

【日 時】

- (1) 2023年4月5日水曜日 午後4時30分から午後5時00分まで
- (2) 2023年6月6日火曜日 午後3時30分から午後5時00分まで

【場 所】

- (1) 1号館1階会議室
- (2) 1号館2階206教室（207教室、応接室）

【参 加 者】

- (1) 人文社会学部教員42名（参加率91%）
- (2) 人文社会学部教員41名（参加率89%）

【目 的】

- (1) ESD基礎科目を理解する
- (2) ESD入門での学びとESD基礎科目のねらいを理解する

【内 容】

- (1) 午後4時30分から午後4時40分まで ESD基礎科目の目的と枠組みの概説（曾我准教授）
午後4時40分から午後5時00分まで 顔合わせ（ESD基礎科目6科目ごと）
- (2) 午後3時30分から午後4時00分まで ESD入門での学びとESD基礎科目全体の概説
午後4時00分から午後4時45分まで ESD基礎科目の各班でのグループワーク
午後4時45分から午後5時00分まで 全体共有

前期FDでは、今年度の入学生のSDGs/ESDの学修状況およびESD基礎科目とは何かを改めて確認するための時間を持ちました。今年度の入学生のほとんどは、中学や高校でSDGsを扱って問題解決型の学習をしてきました。年々その数は増えてきており、数年後にはSDGsの基礎知識は既習済みで入学していくことが予想できます。一方で、ESDについての知識理解はほぼありません。こうした情報を共有しながら、履修する学生の学修状況の確認をまずは行いました。その上で、本学部が提供するESDの意義について説明しました。人文社会学部におけるESDは、「自然や他者との関わりを通して地球社会および人間存在を問うとともに、私たち一人ひとりの『持続可能な生き方／あり方』を捉え直す教育」であり、その核となるESD基礎科目は、「諸問題／課題の現状を知り、持続可能な社会づくりに求められる考え方や価値観、知識、技法などを学べるようにすること」および「問題解決のプロセスに関わり、自信や希望の持てる場となるようにすること」をねらいにしています。ESD入門から始まるESD基礎科目は、履修生らが授業内で扱われるさまざまな事象に出会いながら、高校まで学んできたことを踏まえ、社会のなかにある「問題」とは何かを考え、自らの考え方やあり様をふり返る授業です。こうした共通認識を持つことが前期FDの目的です。

4月5日のFD研修では、上記についての確認をしたうえで、各科目に分かれて、新メンバーとの顔合わせを行い、どのような授業をしているのかを共有しました。6月6日のFD研修では、1年生全員が必修で履修するESD入門（担当教員：曾我准教授）でどのような学びをしているのかを概説しながら、ESDを通してどのような力や資質を身につけてほしいのか、SDGsを通して何を捉えていくことを望んでいるのかについても共有されました。その後の質疑応答では、ESD入門と6科目とのつながり、および専門科目とのつながりをそれぞれの教員が意識していくことの重要性およびグループワークをする際の配慮事項について確認がなされました。また、6月6日の研修では各科目に分かれて、グループワークを行いました。グループワークでは全15回の授業の流れの確認やこれまでの実践をふり返り課題の共有をしました。グループワークを終えて、各科目からどのようなことが話し合われたのかを全体で共有しました。各授業で扱っている内容の紹介をはじめとして、今年度の授業で意識していきたいことなどが報告されました。

<p>以下は、グループワークを通して出された内容の一部です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内のグループワークのメンバーが固定されないように、席を指定して、なるべく多くの学生間で交流ができるようにしていきたい なぜ当該授業を履修しているのかという目的が見えなくなっている学生がいるので、改めて授業の意図について説明していく必要がある ESDは実践の中で学ぶことが大事なので、ESD基礎科目だけにおさまらず、ほかの機会—学外研修や学生の諸活動の支援—の提供を学生にもっと周知していきたい <p>毎年、前期のFDでは、ESD基礎科目的授業の流れの確認および課題の共有を行っています。各教員が授業方法や授業内容をふり返り、教員間でそれを共有することで、よりよい授業実践のあり方を考える機会となっています。</p>	
活動の時期	2023年4月、6月
担当教員	曾我幸代：人間文化研究科（心理教育学科）、准教授、（専門分野）ESD



桜山（川澄）キャンパス

〒467-8601
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

医学部	医学研究科
看護学研究科	

交通アクセス

キャンバスマップ

滝子(山の畑)キャンバス

〒467-8501
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

経済学部	経済学研究科
人文社会学部	人間文化研究科
総合生命理学部	理学研究科
データサイエンス学部	データサイエンス研究科

交通アクセス

キャンバスマップ

田辺通キャンパス

〒467-8603
名古屋市瑞穂区田辺通3-1

薬学部	薬学研究科
-----	-------

交通アクセス

キャンバスマップ

北千種キャンパス

〒464-0083
名古屋市千種区北千種2-1-10

芸術工学部	芸術工学研究科
-------	---------

交通アクセス

キャンバスマップ

大学案内・
教育情報の公
表学部・大学
院受験生の方
図書館・病
院・
附属施設在学生・保護者の方
教育・学生生
活卒業生の方
キャリア・就
職企業の方
研究・産学官連
携・
社会貢献一般の方・教職員志望の方
国際交流・留
学ご支援をお考えの方
入試情
報

SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > みずほ自治会にて「AIの今」についての講演会が行われました

全画面プリント 本文プリント

SDGs活動紹介

みずほ自治会にて「AIの今」についての講演会が行われ ました



活動の概要	2023年6月5日（月曜日）、瑞穂区内の中小企業、区政協力委員長、学区女性会長が会員をつとめるみずほ自治会において、データサイエンス学部の山本祐輔准教授が「ビッグデータ×ITイノベーション：AI技術でできること、できないこと」をテーマに講演を行いました。AIはどのような場面で活用されているか、AIが写真や文章をどのように理解・判断しているか、最近よく耳にするChatGPTとはどんなものか、AI活用におけるリスク等について説明し、講演後には活発な質疑応答が行われました。
活動の時期	2023年6月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.49

スマートフォン表示

PC表示

桜山（川澄）キャンパス
〒467-8601
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

医学部	医学研究科
看護学研究科	
交通アクセス	キャンバスマップ
データサイエンス学部	データサイエンス研究科
総合生命理学部	理学研究科
人文社会学部	人間文化研究科
経済学部	経済学研究科

交通アクセス キャンバスマップ

滝子（山の畑）キャンパス

〒467-8501
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畠1

田辺通キャンパス

〒467-8603
名古屋市瑞穂区田辺通3-1

北千種キャンパス

〒464-0083
名古屋市千種区北千種2-1-10

薬学部	薬学研究科
芸術工学部	芸術工学研究科

交通アクセス キャンバスマップ 交通アクセス キャンバスマップ



大学案内・
教育情報の公
表

学部・大学
院

図書館・病
院・
附属施設

教育・学生生
活

キャリア・就
職

研究・産学官連
携・
社会貢献

国際交流・留
学

入試情
報

SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > 令和5年度 大学丸ごと研究室体験を開催しました

全画面プリント

本文プリント

SDGs活動紹介

令和5年度 大学丸ごと研究室体験を開催しました

4 質の高い教育を
みんなに



5 ジェンダー平等を
実現しよう



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



活動の概要	<p>2023年7月24日から8月25日にかけて、名古屋市教育委員会との高大連携事業の一環として「大学丸ごと研究室体験」を実施しました。</p> <p>この企画は、本学医学部・薬学部・総合生命理学部の研究室において、名古屋市立高校生が最先端の研究に触れ、高校までに学ぶ科学が社会にどう関わっているかを知り、科学に対する興味・関心を深めていただくために大学での実験活動の体験を提供するものです。実際に各研究室で専門分野の実験を体験できる、全国的にも珍しい取り組みです。</p> <p>今年は31講座を開講し、140名を超える名古屋市立高校生の参加がありました。参加した高校生からは「先生や学生と一緒に実験を進めるなかで、最新の研究を詳しくしことができた」、「将来の進路を考える参考になった」との声をいただきました。</p>
開催時期	2023年7月24日から8月25日
関連URL	本学広報誌『創進』Vol.50

スマートフォン表示

PC表示

桜山（川澄）キャンパス

〒467-8601

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

北千種キャンパス

〒464-0083

名古屋市千種区北千種2-1-10

医学部

医学研究科

看護学研究科

交通アクセス

キャンバスマップ

経済学部

経済学研究科

人文社会学部

人間文化研究科

総合生命理学部

理学研究科

データサイエンス学部

データサイエンス研究科

交通アクセス

キャンバスマップ

田辺通キャンパス

〒467-8603

名古屋市瑞穂区田辺通3-1

薬学部

薬学研究科

交通アクセス

キャンバスマップ

芸術工学部

芸術工学研究科

交通アクセス

キャンバスマップ

SDGs活動紹介

[ホーム](#) > [SDGs活動紹介](#) > 第13回形態科学シンポジウムを開催しました

[全画面プリント](#)
[本文プリント](#)
[SDGs活動紹介](#)

第13回形態科学シンポジウムを開催しました



活動の概要	<p>2023年8月19日（土曜日）、名古屋市立大学医学部研究棟11階講義室Aにて日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会・基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会主催の公開シンポジウムを開催しました。</p> <p>本シンポジウムは、高校生を対象に第一線で活躍する研究者との交流を通じて、生命科学の魅力を伝えるもので、基礎生物学研究所の阿形清和所長や、東京大学医科学研究所の谷口英樹教授に講演いただきました。講演のほかに、「現役研究者になんでも聞いてみよう！」というテーマでパネルディスカッションを行いました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創進』Vol.49（2023年9月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2023年8月
関連URL	本学広報誌『創進』Vol.49

[スマートフォン表示](#)
[PC表示](#)

桜山（川澄）キャンパス
〒467-8601
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

医学部	医学研究科
看護学研究科	

[交通アクセス](#) [キャンバスマップ](#)

滝子（山の畑）キャンパス
〒467-8501
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

経済学部	経済学研究科
人文社会学部	人間文化研究科
総合生命理学部	理学研究科
データサイエンス学部	データサイエンス研究科

[交通アクセス](#) [キャンバスマップ](#)

田辺通キャンパス
〒467-8603
名古屋市瑞穂区田辺通3-1

薬学部	薬学研究科
交通アクセス	キャンバスマップ

[交通アクセス](#) [キャンバスマップ](#)

北千種キャンパス
〒464-0083
名古屋市千種区北千種2-1-10

芸術工学部	芸術工学研究科
交通アクセス	キャンバスマップ

[サイトポリシー](#) [プライバシーポリシー](#) [ウェブアクセシビリティ](#) [学内組織リンク](#) [学外関連リンク](#) [このサイトについて](#) Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY, All rights reserved.

大学案内・
教育情報の公
表

学部・大学
院

受験生の方
図書館・病
院・
附属施設

在学生・保護者の方
教育・学生生
活

卒業生の方
キャリア・就
職

企業の方
研究・産学官連
携・
社会貢献

一般の方・教職員志望の方
国際交流・留
学

ご支援をお考えの方
入試情
報

SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > 「SDGs AICHI EXPO」に人文社会学部 曾我准教授ゼミの学生が出演

全画面プリント

本文プリント

SDGs活動紹介

「SDGs AICHI EXPO」に人文社会学部 曾我准教授ゼミ の学生が出演



活動の概要	<p>2023年10月5日（木曜日）から7日（土曜日）に開催された「SDGs AICHI EXPO2023」（SDGs AICHI EXPO実行委員会主催）に人文社会学部心理教育学科の曾我ゼミ生が出演し、SDGsにつながる行動を考えるワークショップで来場者との交流を楽しみました。</p> <p>来場者のみなさんに「絵地図」（©日本国際理解教育学会）にあるSDGsにつながる状況を読み取り、それに対して「自分に何ができるのか」を考え、付箋紙に記入していただきました。98名の方がこのワークに参加してくださいました。ありがとうございました！</p> <p>こうした学外のイベントに参加することで、地域の方々とお話しする機会をいただけたので、学生たちにも多くの学びがあります。少しでも多くの方がSDGs達成につながる行動について考え、実行に移してくれることを願っています。またの機会を楽しみに。</p> <p>以下に、参加者からの声をいくつか紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節電 ・水筒を使う ・生きものとのふれあい・楽しさを紹介します ・買った物を捨てず、全部消費する ・カメをいじめない ・とにかく戦争を止めたら、自然も資源も人も生きものも守れると思う ・無駄遣いを無くす ・車を使う機会を減らし、電車を良く利用するようにしています ・みつろうラップを使う ・残さず食べる ・もったいないマインド ・新聞を有効活用する ・割り引き食品（消費期限の近いもの）を積極的に買うようにしています！ ・カメを助ける！ ・残業0！！ ・魚釣りの際にゴミを拾って帰る ・地球温暖化で雪がとけているからCO₂を出さないように生活する ・ゴミをポイ捨てしない ・募金をする ・地産地消
活動の時期	2023年10月
関連URL	<p>○SDGs IDEA FORUM 2022で最優秀賞を受賞した学生にイベント参加いただきました。 SDGs IDEA FORUM 2022で本学学生が最優秀賞、特別賞を受賞！</p>



2023年10月5日 来場者との交流の様子（人文社会学部の学生が制作したSDGs探検ノートと薬学部の学生の研究成果の紹介も実施されました）



2023年10月5日 記念撮影(SDGsセンター林センター長、人文社会学部学生、曾我准教授)

SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > NCUサステナビリティ・ワークショップ2023を開催

全画面プリント 本文プリント

SDGs活動紹介

NCUサステナビリティ・ワークショップ2023を開催



4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナーシップで
目標を達成しよう

活動の概要

2023年11月4日（土曜日）にNCUサステナビリティ・シンポジウム2023「住から考える持続可能な都市 名古屋」（名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科曾我幸代研究室主催、名古屋市・名古屋市教育委員会・名古屋市立大学SDGsセンター後援）を開催しました。住というと、住宅や建築、まちづくりという印象を受けるかもしれません、それには経済や社会システム、自然のバイオアズームが深く関わっています。住は、私たちの生活そのものです。これまでにテーマに掲げた食や防災は、SDGsのゴールにもある貧困や飢餓、健康、エネルギー、気候変動、生物多様性にも深く関わっていました。住も同様に、複合的かつ分野横断的なテーマであり、それはSDGsを包括的に捉え、各ゴールやターゲットにあげられていない状況にも目を向けさせます。「住」をどの切り口からみるのかによって、その現れ方は異なり、またそれは文化による差異にもつながります。

そこで、今回はさまざまなことに関連する「住」を通して、自らの暮らしや営みをふり返り、どのような持続不可能な状況を生み出しているのか、またいかに持続可能なあり方にシフトできるのかを考える機会をしたいと思いました。これまでの開発がこうした差異に目を向けて一様に繰り返されてきたのだとすれば、私たちの住環境に現れる多様性は失われていきます。私たちがどのような社会を求め、どのような開発のあり方を望むのかを考え、それを実行に移していく必要があることを改めて共有することの大切さを再確認できる機会となりました。それは、SDGs未来都市という看板を掲げる名古屋という都市社会において、社会的公正や環境保全に配慮した開発のあり様を考え、参加者全員で自らの足元から考える契機とも言えるかもしれません。

そこで本ワークショップでは住とSDGsを掛け合わせ、不確実性の高い時代に生きる私たちにとってすべきこととは何かを考えました。子ども・若者の視点から、何が問題で、それらにどのように取り組むことが求められるのかを考え、発表しました。その上で、SDGsのアイコンを街中でよく見掛けるようになった昨今のSDGs未来都市としての名古屋のあり様を考え、参加者全員で自らの足元から考えました。

開催日時・場所

2023年11月4日（土曜日）午後1時30分から午後3時30分まで
名古屋市立大学ampusキャンパス1号館2階201教室他

スケジュール

午後1時30分から午後1時40分まで 開会の挨拶・趣旨説明
午後1時40分から午後1時45分まで ワークショップの説明・各会場へ移動
午後1時45分から午後2時40分まで 高校生・大学生協働ワークショップ
午後2時40分から午後3時20分まで 全体会
午後3時20分から午後3時30分まで 閉会の挨拶 (SDGsセンター長 薬学研究科教授 林秀敏)

参加校・ゼミ

高校生：名古屋市立北高等学校
名古屋市立名東高等学校
名古屋経済大学市邨高等学校
大学生：名古屋市立大学看護学部地域保健看護学ゼミ
名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科曾我ゼミ

参加者の声

【高校生】自分は防災についての学びを発表したが、他のテーマに関することだととも、全部の共通点としてコミュニティの繋がりが挙げられて、うまくコミュニティ資源の活動をすることで、コミュニティの繋がりが強くなると感じました。また、他のグループの意見を聞いて、コミュニティの繋がりが強まっていく中でうまれる価値観の違いがあるが、それは合わせる必要がなく、互いに尊重していくのが良いと思いました。

【高校生】他校の子が何を学んでいるのか、どんな活動をしているのかを知る良い機会になった。「人とのつながり・関わり」をテーマにしているグループが多かったが、こういうワークショップに参加し、校外でのコミュニティを作ることも大切だと思った。
 ・価値観は違うから、様々な価値観にふれ合ってみる。
 ・オンラインイベントばかり参加したり企画したりしているので、オフラインのイベントを企画して地域での交流を作るのは楽しそう。
 ・私は人、地球は人中心ではない（もっと視点を広げて考えないかん）。

【高校生】自分の高校だけでも他の子の意見や感想に対して“発見”や“気付き”があったけど、他の高校や年の違う人達の違う視点からの意見や考えを聞いて新しい発見がたくさんありました。普段の高校生活では、同じ学校同士での意見交換の場はたくさんあるけど、違う学校の人達と話をしたりする機会はあまりないので、楽しかったです。

【高校生】今回、他の学生が半年～一年間かけてやったこと、学んだことを聞いて、例えば、“防災”や“看護”、“食”など問題点を見た時に、それができるために、“人と人で協力”しないとできないことに気づき、人をもっと大事にしようと思いました。もっと子どもや高齢者を大切にしていくような町づくりをしたいです。

【高校生】「住」というテーマになると、その結論もバラバラになると思っていた。けれど、皆たどりつくところは同じで、その過程はグループごとに様々だった。自分と同じ考え方や違う考え方もあり、とても興味深かった。

【大学生】「人とのつながり」を問題点としているグループが多く、誰もが問題意識をもっている一方で、つながりが希薄化している現状があり、行動に結びつけることが難しい問題なのだろうかと思いました。

【大学生】所属する学部や学科によって、同じ住であってもその見方は様々であり、非常に興味深かったです。防災や食、地域環境やその土地に住む人々など、住には様々な要素が存在しているが、その根底にいるのは、その地域に暮らす人々であり、人々がつながって、協力し、コミュニティを築きあげることで、これらの問題にアプローチ、解決していくのだということを学んだ。とても良い経験をすることができました。

【大学生】色々な学校の方の学びが聞けて良かったです。改めて自分の周りの住環境についてや、将来的環境について考え、持続可能性、この先も住み続けていくことが出来る住を考えるきっかけになりました。今後も色々な人が自分のこととして、住環境を考えていくことが出来ると良いコミュニティになっていくのかなと思いました。

【大学生】発表を聞いたり、話し合いをしたりして、人とのつながりとそれをつくるためのイベントが大切だと感じました。今の社会は「個」を尊重していて、それが影響して人とのつながりがうすれていると分かりました。挨拶など気軽にできることからはじめて、サロンや町内のお祭り、ワークショップなどのイベントへの参加につながると分かりました。子どもから高齢者まで幅広い世代が参加し関わりえることが大切で、みんなが楽しめることも重要だと強く感じました。

【大学生】高校生たちの取り組みや課題意識を聞いて、大学生である自分も本当に勉強になりました。人間中心の暮らしではなく、“地球中心”的視点による暮らしづくりの必要性を強く感じました。

[サスティナビリティワークショップ（チラシ）（PDF ファイル 1.74MB）](#)



グループ発表の様子



グループワークの様子



参加した高校生と大学生の集合写真

スマートフォン表示

PC表示

桜山（川澄）キャンパス

〒467-8601

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

滝子（山の畑）キャンパス

〒467-8501

名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畠1

田辺通キャンパス

〒467-8603

名古屋市瑞穂区田辺通3-1

北千種キャンパス

〒464-0083

名古屋市千種区北千種2-1-10

医学部	医学研究科
看護学研究科	

経済学部	経済学研究科
人文社会学部	人間文化研究科

薬学部	薬学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ

芸術工学部	芸術工学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ

[交通アクセス](#)

[キャンパスマップ](#)

総合生命理学部	理学研究科
データサイエンス学部	データサイエンス研究科

[交通アクセス](#)

[キャンパスマップ](#)

SDGs活動紹介

[ホーム](#) > [SDGs活動紹介](#) > 生物多様性に関するシンポジウムを名古屋市と共催しました[全画面プリント](#)[本文プリント](#)

SDGs活動紹介

生物多様性に関するシンポジウムを名古屋市と共催しました



2024年3月24日（日曜日）、本学の理学研究科附属生物多様性研究センターは、名古屋市環境局なごや生物多様性センターと「なごや生物多様性シンポジウム2024～みんなでつなごう生物多様性の未来～」を共催しました。

会場となった田辺通キャンパス宮田專治記念ホールには当日、12校の高校・大学からの約100名の参加者を含めて200名以上が来場し、大盛況でした。普段なかなか接点がない専門家・研究者と高校生・大学生が交流する良い機会となりました。

○当日の内容

- 第一部：生物多様性調査の専門家によるなごやの希少種報告
- 第二部：高校生・大学生が日頃の活動成果を発表するポスターセッション
- 第三部：名市大の研究者による生物多様性・SDGs研究報告

なごや生物多様性シンポジウム2024（名市...）



（第三部：名市大の研究者による生物多様性・SDGs研究報告より）

講演者：尾崎 康彦（看護学研究科 教授／医学部附属西部医療センター前副病院長）
演題：アニマルウェルフェアを目指した大型類人猿の診療ネットワークの構築
－動物とヒトとの共存のために私たちにできること－

※本動画には、大型類人猿の不妊に対する医療行為及び関連する解説の中で生殖器、精液採取等に関する映像が含まれます。

[スマートフォン表示](#)[PC表示](#)

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

名古屋市瑞穂区田辺通3-1

名古屋市千種区北千種2-1-10

医学部	医学研究科
-----	-------

看護学研究科

交通アクセス

医学研究科

キャンパスマップ

経済学部	経済学研究科
人文社会学部	人間文化研究科
総合生命理学部	理学研究科
データサイエンス学部	データサイエンス研究科

交通アクセス

キャンパスマップ

薬学部	薬学研究科
-----	-------

交通アクセス

キャンパスマップ

芸術工学部

芸術工学研究科

交通アクセス

キャンパスマップ

[サイトポリシー](#) [プライバシーポリシー](#) [ウェブアクセシビリティ](#) [学内組織リンク](#) [学外関連リンク](#) [このサイトについて](#)

Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY, All rights reserved.